

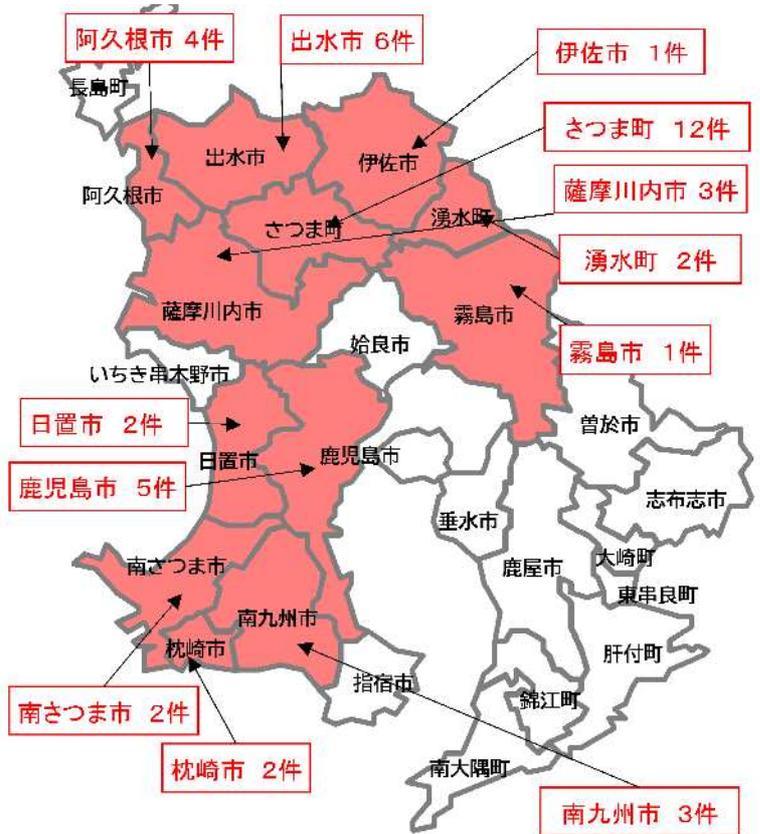
6. 砂防施設の効果事例

■2021年(令和3年)7月, 8月の大雨による土砂災害発生状況

7月の大雨	土砂災害発生件数23件 (9市町村 : がけ崩れ23件 土石流等0件)	
	【被害状況】	
	人的被害	: 負傷者 0名
	家屋被害	: 住家全壊 0戸 : 住家半壊 0戸 : 住家一部損壊 3戸 : 非住家被害 4戸

8月の大雨	土砂災害発生件数20件 (5市町村 : がけ崩れ18件 土石流等2件)	
	【被害状況】	
	人的被害	: 負傷者 0名
	家屋被害	: 住家全壊 0戸 : 住家半壊 0戸 : 住家一部損壊 6戸 : 非住家被害 4戸

合計	土砂災害発生件数43件 (12市町村 : がけ崩れ41件 土石流等2件)	
	【被害状況】	
	人的被害	: 負傷者 0名
	家屋被害	: 住家全壊 0戸 : 住家半壊 0戸 : 住家一部損壊 9戸 : 非住家被害 8戸
	※近10年(H24~R3)の年平均土砂災害発生件数 75件/年	



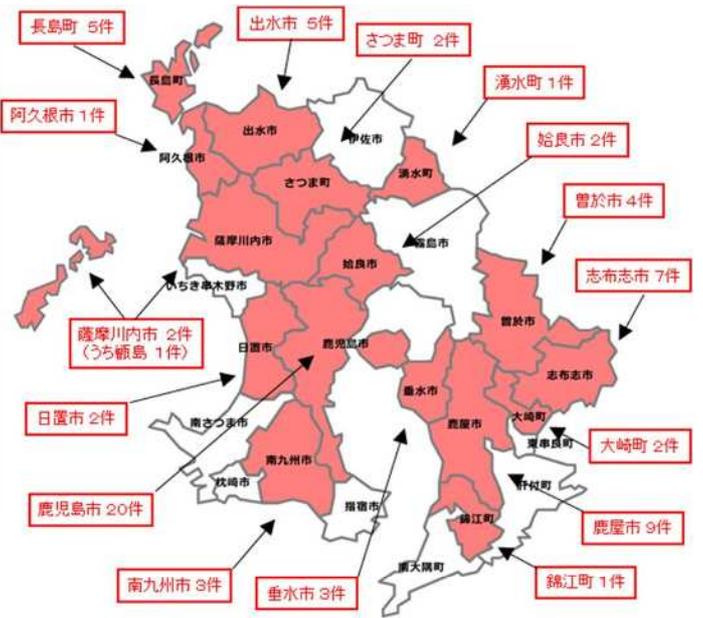
■2020年(令和2年)7月豪雨による土砂災害発生状況

土砂災害発生件数69件
 (16市町：がけ崩れ59件 土石流等10件)

【被害状況】

人的被害：	負傷者	1名
家屋被害：	全壊	14戸
	半壊	6戸
	一部損壊	16戸

※近10年(H22~R元)の
 年平均土砂災害発生件数 **88件/年**



災害復旧事業による対応箇所

7/6 鹿屋市新生町曾原地区(がけ崩れ)



7/6 志布志市有明町樽野地区(がけ崩れ)



災害関連緊急事業による対応箇所

7/6 垂水市新御堂新光寺第2小川(土石流)



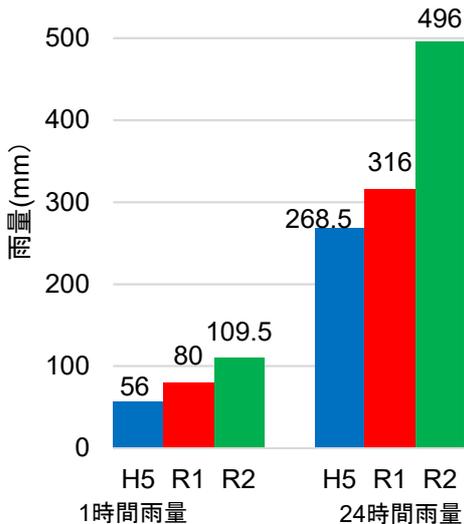
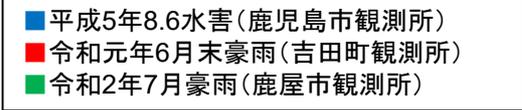
7/6 鹿屋市新栄町八ヶ尾南地区(がけ崩れ)



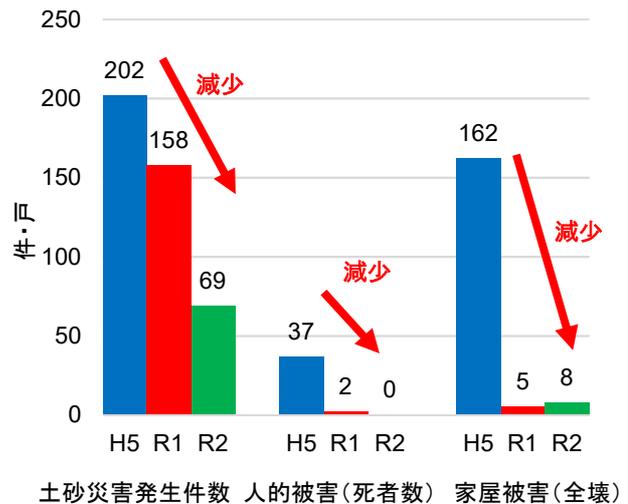
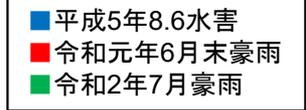
1993年(平成5年)の8・6水害や2006年(平成18年)の北部豪雨災害を受けて、大きな被害を受けた地域等に砂防関係施設を重点的に整備してきた結果、土砂災害の発生件数及び被害が減少しています。

【平成5年8・6水害、令和元年6月末豪雨と令和2年7月豪雨との比較】

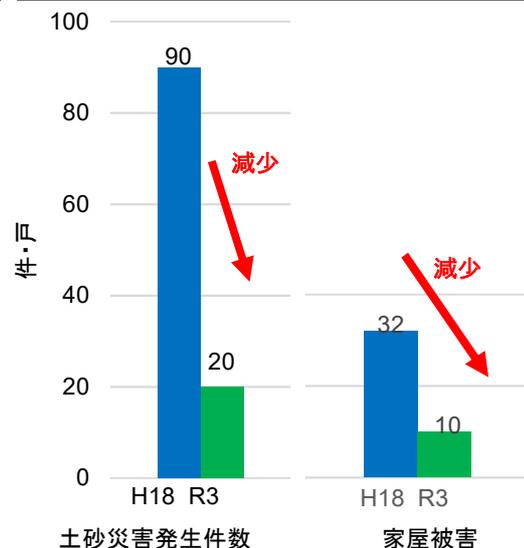
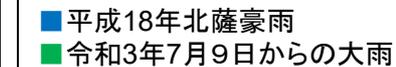
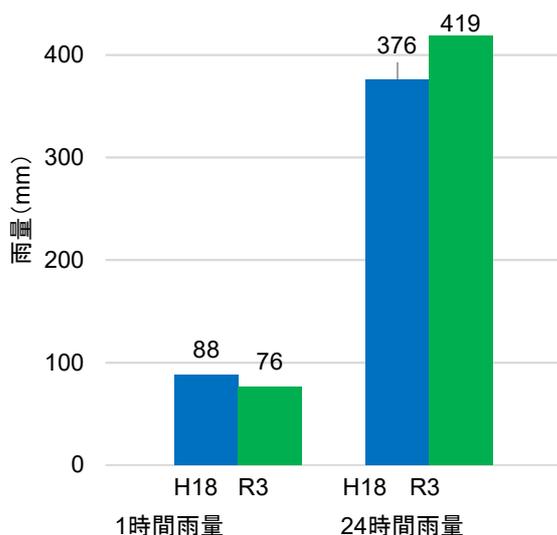
■ 降水量



■ 土砂災害の発生件数及び家屋被害(鹿児島県内)

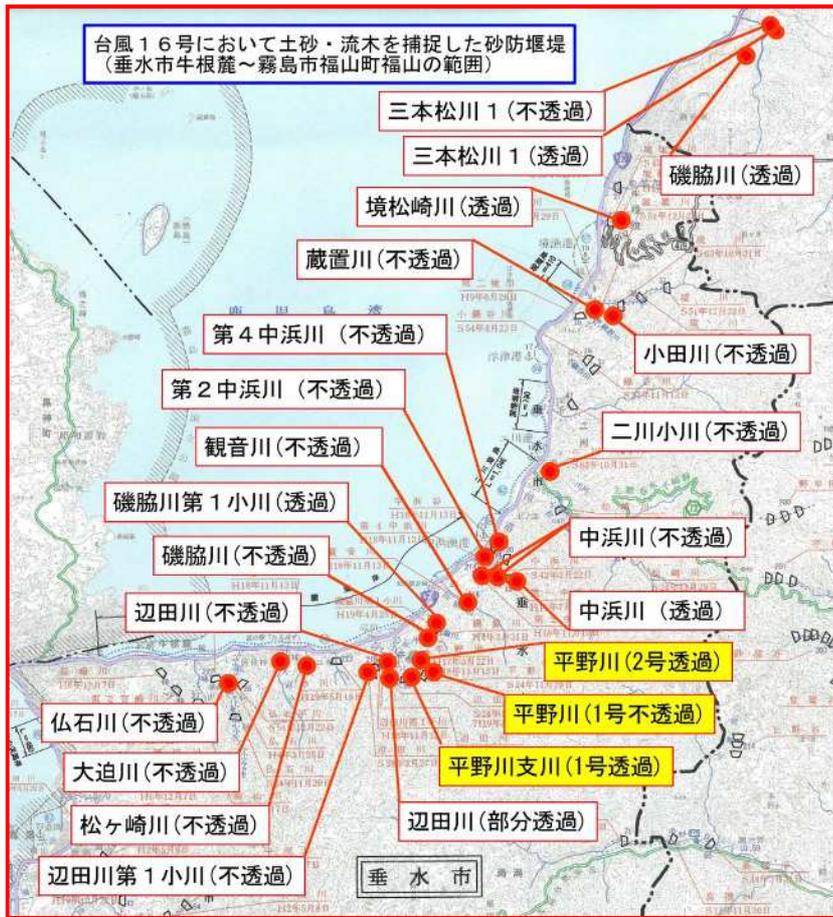


【平成18年北薩豪雨と令和3年7月の大雨との比較】



	H5年度	H18年度	R3年度末	増減
砂防関係施設整備箇所数	871箇所	1508箇所	1,803箇所	+932箇所
整備率	20%	30%	36%	16%

■2016年(平成28年)9月台風16号の大雨における砂防堰堤による土砂・流木捕捉事例



災害が繰り返される中で長年にわたり施設整備を進めた結果、多数の砂防堰堤が土石流や流木を捕し、下流での人的被害発生を防止しました。



垂水市牛根麓
平野川・平野川支川

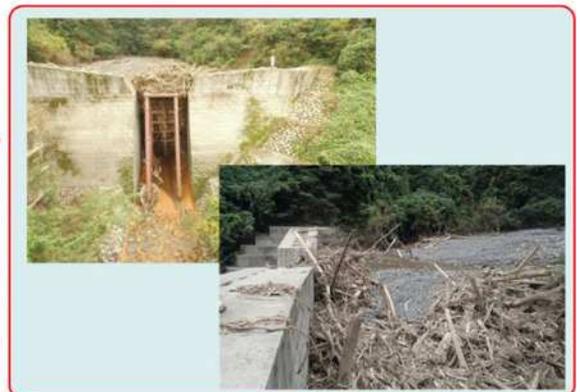
鋼製透過型砂防堰堤
(1号, 2号堰堤)及び
不透過型砂防堰堤
(3号堰堤)が
土砂・流木を捕捉



1号堰堤の捕捉状況

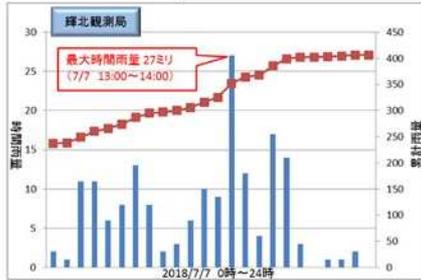


2号堰堤の捕捉状況



■2018年(平成30年)7月梅雨前線豪雨における砂防堰堤による土砂・流木捕捉事例

垂水市・深港川2



降雨前の状況(7/4)
(堰堤背後には不安定土砂が堆積)



平成27年の梅雨前線豪雨による土石流災害後に整備した砂防堰堤(本堤)が完成したことにより、土砂や流木を捕捉し下流への被害を防止することが出来ました。



豪雨時の状況(H30/7/7)



豪雨時の状況(H30/7/7)



流木の捕捉状況(H30/7/8)

■新燃岳噴火による霧島川の砂防堰堤の効果事例

霧島市・霧島川



平成30年3月6日に7年ぶりの爆発的噴火



土砂(降灰等)が降雨により河川に異常堆積(240cm堆積)



新燃岳の下流にある霧島川では、平成23年の噴火後に整備をした第10号砂防堰堤が、出水期の降雨で流出した土砂(降灰等)を捕捉することが出来ました。



第10号砂防堰堤の整備



土砂等の捕捉状況(H30/6/21)



堰堤下流の状況(H30/6/21)